

## 直立で240センチ、道東で1、2位をあらそう

# 巨大ヒグマ

## 展示公開中

昨年、10月に春別川さけます捕獲場にて捕獲されたヒグマの剥製が完成し、郷土資料館展示室にて公開中です。

捕獲時のデータは下記の通りです。近年捕獲されたヒグマの中では、1、2位をあらそう大きさです。大迫力の剥製をぜひ、ご覧下さい

- 推定年齢 15歳
- 性別 オス
- 体長 2m40cm (直立測定値)
- 体重 390キロ



## 期間を延長します！ 加賀家文書館 第7回特別展「近世の別海をさぐるⅡ」

近世（江戸時代）シリーズの第2弾、海岸線を中心に「加賀家文書」や同年代に残された文献史料により、わかりやすくご紹介します。ぜひ、ご覧ください。

- 期間 11月30日（月）まで
- 観覧料 常設展示（大人300円）で観覧できます。



# 近世の別海を探る 「ベツカイ」～その3～

## ○幕府再直轄時代 安政2年（1855）～慶応3年（1867）

幕府は、アメリカ・ロシアの開国、国境確定の要求に松前藩の蝦夷地支配に危機を感じ、松前藩領を残し再び蝦夷地を直轄しました。

幕府は、国防強化のため、東北四藩に蝦夷地の警備や開拓を命じました。根室場所は、仙台藩の持ち場とし、さらに東北二藩が加わると、ニシベツ（本別海）を境に北側を会津藩、南側を仙台藩と定めました。

また、アイヌ民族に対する政策として、風習慣習の和風化などを進めました。しかし、依然として、場所請負人の支配下におかれたままであり、安価な労働力としてのアイヌ酷使の状態には変わりありませんでした。

幕府の蝦夷地再直轄に伴い役人の蝦夷地調査が多くなり、ますます当地方の様子がはっきりしてきます。これらの文献史料は、細かい違いはあるものの、ほぼ同様な事柄が記述されています。

なかでも、厚岸に在勤し、釧路・厚岸・根室を統括していた調役並の喜多野省吾の記録は、当時の「ベツカイ」の様子を詳細に記述しています。

「ベツカイ通行家付 番家 壹軒 横七間 長二十五件程 此建坪百七拾四坪七合五勺 但下家付」  
「土人家数拾五軒」「人別八拾壹人 内男三拾八人 女四拾三人」  
「御上鮭製造蔵 壹軒」「仕入もの蔵 壹軒」「介抱魚困蔵 壹軒」「網蔵 壹軒」「板蔵 壹軒」  
「塩切蔵 壹軒」「雑（蔵）三軒」「稻荷社 壹ヶ所」  
「御制札場 壹ヶ所」  
「凶合船 五艘」「チヨロ船 三艘」「平駄船 壹艘」「磯船 四艘」「蝦夷船 四艘」「定詰番人六人詰」  
「右は漁有無に寄増減に御座候  
— 風土積り雪氷海子モロ同様川邊之廣故寒氣至大強く御座候但十月末頃雪降三月末頃消  
— 山獵無之候  
— 産物鱒鮭フラルエ  
— 深林無之候  
— 遠山立木たもき檜柁せん志柳柁  
— 材木はヲン子トウ山より伐出し薪は川上より伐出用ひ候  
— 葉草毒出無之候」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政3年（1858）【63】

安政3年（1858）の「ベツカイ」の様子は、アイヌの住居が15軒、人口が81人（男38人・女43人）でした。建物は、通行屋を中心に献上鮭製造蔵や漁に係る蔵が9棟、稻荷社、御制札場、通行船など17艘あり、集落を形成していたようです。

別海町郷土資料館だより No.124  
発行日 平成21年11月4日  
発行所 別海町郷土資料館  
別海町別海宮舞町30番地  
電話 0153-75-0802（FAX兼）  
e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 大きなヒグマだと話でしか聞いていなかったの  
で、剥製が完成して本当にびっくりしました。普段はあまり  
立ち上がることはないと思いますが、立ったヒグマの剥製を  
依頼しました。凶暴に見えますが、15年も長生きしたクマ  
で私たち人間と距離を置きながら暮らしていたことと思われ  
ます。なので、そう説明していきたいと思います。（K.I）